

◆特集 このまま突き進んでいいのか

幕張メッセを死の商人に貸すな

安保関連法に反対するママの会@ちば

小林 文子

おさらいさせて頂くと

第二次世界大戦が終わった時、日本は徹底的な攻撃を受けて焼け野原になった。「この世に核兵器が存在してしまった以上、不戦以外に人類滅亡を防ぐ道は無い」として、憲法前文や九条に不戦の誓いが、当時の国会の承認をもって明記され国是となった。それが永遠に続いて欲しかったが、時代が変わり、戦争に繋がる悪法の整備が進み、今や日本は戦争が出来る国になり、武器売買も出来、なんと先制攻撃まで可能になってしまった。後は戦う口実と国民感情さえ整えば準備は万端だ。

ただ市民はそれを黙って見ていた訳ではなく、安保関連法、いわゆる戦争法が強行採決された時は国会前で大勢の人々が集まり、何度も警察の作った道を塞ぐバリケードが決壊する程だった。あの時程の人数は見られなくなったものの、次々と悪法が表面化する度に国会周

辺に人々が集まり抗議する声や定期的な集会、勉強会等は、日本が戦争国家へ突き進むスピードにブレーキを掛けていると捉えて間違いは無いだろう。

市民運動と私の場合

安保関連法がまだ「案」だった頃、大学生を中心にした「シールズ」や「安保関連法案に反対する学者の会」（同）ママの会@〇〇（↑地域名）等、あらゆる立場から抗議の意思を掲げたグループが出来た。野党候補を戦術的に国会に送り込む作戦として野党共闘を後押しする「市民連合」もこの流れだったと記憶する。

私は2011年の3・11福島第一原発事故で、政府の対応やマスコミ報道に違和感を覚えた一人だが、放射能から逃げられないのなら、過ちを繰り返さない社会、理不尽に悲しい思いをする人が出ない社会にする為の行

動をしたいと思った。国の政策で50基以上も作られた原発は安全では無かった。政府は嘘をつくし、政治と生活は地続きだと痛烈に実感した出来事だった。

マスコミ報道を疑い「Twitter」を開始し、「デモや講演会情報を見付けて参加し行動する中で、これまでもずっと社会の矛盾に声を上げ行動していた尊敬すべき人々が居た事を知った。同時に自分の無知さ加減も思い知った。

「@ちば」の出来ごと

何か行動したくて、船橋の脱原発アクションに参加した時、出会ったばかりの仲間に安保関連法案に反対するママの会が渋谷でデモをすると聞き参加した。全国から集まった女性が、ママという立場からのスピーチをした後にデモ行進が始まった。そのコールが強く胸に響いた。『戦争の道具作るのやめよう』『戦争の理由作るのやめよう』『ママは戦争しないと決めた』『パパも戦争しないと決めた』『誰の子どもも殺させない』『沿道の視線も暖かかったと思う。私は「そうだよ、それそれ、それが良いじゃん！ それで行こうよ！」と勇気を貰い、出来る事はやりたいとママの会@ちばでの活動に加わった。国会で強行採決された後も改めて「安保関連法に反対す

るママの会@ちば」として、戦争に繋がる全てに一步も譲らずに反対したかった。

具体的な行動

署名、スタンディング、国政に私達の味方を送る為の選挙応援等。大会パンフレットにチーム名が載るからとマラソン大会にエントリーしたり、「アースデーちば」に出店して憲法ビンゴをした事もあった。他にも行政への働き掛けとして県や市に請願を出したり記者会見も。アウェイな場所へ行く事は一気に市民活動のハードルが上がる様で戸惑いがあったのも事実。

死の商人が幕張に来る？

2017年、幕張メッセで初の武器見本市「マストアジア」が開催されるとの情報を仲間が見付けて来た。2015年にはパシフィコ横浜（県有施設ではない）で開催され盛況だった様子で、もっと広い会場で、との事で幕張メッセが選ばれたと聞いた。イギリスの民間企業が主催する軍事見本市で、アジア地域に市場を広げる目的で日本開催を狙っていたと。これは千葉県民として放

◆特集 このまま突き進んでいいのか



「DSE I japan・2023」

2023年3月15日～17日に幕張メッセで開催された。抗議行動は「幕張メッセでの武器見本市に反対する会」と「安保関連法に反対するママの会@ちば」が呼びかけて、約300名が参加した。

っては置けないと、その時からママの会@ちばの主な行動テーマになった。この時はメッセ最寄りの駅でのスタンディングをしたが、急な呼び掛けにも関わらず、SNSに反応して自作のプラカードで参加してくださった方もいた。

私達はこの運動を大きくする為にママの会@ちばの域を超えて広く繋がりたいと、「幕張メッセでの武器見

本市に反対する会」を立ち上げ、NAJATの杉原浩司さんをはじめ県外の方々とも連帯しての行動が始まった。イギリス在住の日本女性からは「DSEI」の反対行動の様子を聴く機会も得られた。本場イギリスでは宗教だつたり自然保護だつたり様々な観点からの反対グループが、開催中に日にちや時間を変えて各々独自の反対行動をしているとの事だつた。

戦争で儲ける事は罪じゃない？

幕張メッセは千葉県の県有施設で私達の税金が使われている。メッセの設置管理条例には「公序良俗に反する事には貸さない」と書かれているし、千葉県は「非核平和千葉県宣言」を過去の議会で全会一致で出している。その一文に「戦争という手段によらずに紛争を解決する道を追求：」とあるのに、なぜ人の命を奪う道具のビジネスに場を提供出来るのか私には理解出来ない。

「マストアジア」は2019年にも、「DSEI japan」は2019年と2023年に、合わせて4回も幕張メッセで武器見本市が行われてしまった。そして来年2025年5月21～23日の開催が決まっている。

知事は私達に会おうとしない

県議会に「幕張メッセを武器見本市に貸し出さないで」との請願をこれまで何回も出しているが、賛同してくれる議員は定数95名の中の僅か数名だ。反対する議員の中にはその理由を「特定のイベントにメッセを貸さない訳にいかない」と言う人も居るが、それよりも公序良俗に反すると思わないのか疑問だ。「僕たちは自民党が反対なら反対なんだ」と言う無所属で当選した議員達も居るし、県庁に足を運んだからこそ見える現実があった。

行政への働き掛けとしては知事との懇談や、要請文や署名の提出を申し入れて来た。いつも対応してくれるのは県職員で、知事が姿を見せた事は一度もない。森田さん時代から知事宛にハガキを送るキャンペーンもやったが、熊谷さんに移行しても、職員は読んでいるが知事は読んでいないと懇談の場で伝え聞いた。市民の声を聴かない知事は県民の代表として相応しいとは思えない。

人の命をなんだと思っっているんだ

イスラエルによるガザのジェノサイドが終わりを見せ

ない。イスラエルの軍需企業ラファエル社のセールスブックで「戦場で実戦済み」と言ったと報じられた。又、アメリカのロッキードマーチン社CEOは中東とアジア太平洋を我が社の「成長市場」としての商人たる本質を隠しもしない。戦争で儲かる企業があり、戦争を起こすのは一般市民ではなく政府なのだから、このバカらしい仕組みに皆が気付いて、仮想敵への憎悪を煽られないで戦争回避の行動をして欲しいと思う。

何が出来るのか

何がしたいのか。どうなったら良いのか。

戦争の心配が無い社会が理想だが、それだけでは足りないのだと思う。私達は生活の中で便利さを求めて知らず知らずの内に軍産複合体に協力している一面がある。生活を見直し不買運動なら誰でも出来る事だろう。先ずは知る事、知らせる事。運動の裾野を広げて共に声を上げる仲間を大切にしたい。新しい仲間や繋がりを広げる事に加え、行動する人とならない人のギャップを埋めていく努力も必要かもしれない、ふと思った。

未来を諦めたくない。

(こばやし あやこ)